

会議録（概要）

会議名	令和2年度 第2回地域包括ケア推進委員会					
会場	芦屋町役場3階31会議室					
日時	令和2年8月31日（月） 14:00～15:10					
委員の出欠	委員長	中村 貴志	出	委員	末武 司郎	出
	副委員長	片山 和夫	出	委員	松尾 シズ子	出
	委員	白石 英也	欠	委員	占部 吉郎	出
	委員	渡邊 秀樹	出	委員	中西 智昭	出
	委員	吉田 まり子	出	委員	川上 誠一	出
	委員	岳藤 さおり	出	委員	安部 知彦	出
	委員	櫻井 俊弘	出			
	委員	大古 久美	出			
件名・議事	<ul style="list-style-type: none"> ・議事 <ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度第1回地域包括ケア推進委員会（書面開催）結果について 2 第8期高齢者福祉計画骨子案について ・報告 <ol style="list-style-type: none"> 1 老人憩の家アンケート結果について 					
合意事項 決定事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度第1回地域包括ケア推進委員会（書面開催）結果について <ul style="list-style-type: none"> ・報告、了承された。 2 第8期高齢者福祉計画骨子案について <ul style="list-style-type: none"> ・報告、了承された。 					

令和2年度第2回地域包括ケア推進委員会 会議録

○日時

令和2年8月31日(月)14:00～15:10

○場所

芦屋町役場3階 31会議室

○協議事項

- 1 令和2年度第1回地域包括ケア推進委員会(書面開催)結果について
- 2 第8期高齢者福祉計画骨子案について
- 3 その他
 - ・老人憩の家アンケート結果について

議事1 令和2年度第1回地域包括ケア推進委員会(書面開催)結果について

- 事務局から【資料1】令和2年度第1回地域包括ケア推進委員会(書面開催)結果に基づき説明。

(委員)

・芦屋中央病院では緩和ケア病棟を2年前に新設した。緩和ケア病棟・外来ができてから、在宅で最期を過ごす方も増え、患者の終末期の意思を尊重できる機会が増えている。

新設前は一桁だった在宅での看取りが、去年は30件近くに増えたが、未だ在宅で医療の提供が受けられることを知らない方も多い。どういうフォローが今後できるのか、地域の介護サービスをどう充実していけるのかを考え、地域の皆さんに理解していただけるように努めたい。

・まだ、この地域での在宅医療が弱い。芦屋中央病院としても、訪問看護は行っているが、訪問診療の分野が弱いため、今後、内科系の医師の賛同を得て、医師も関わるかたちでの在宅での看取りを行っていくために、在宅医療を強化していきたい。

また、介護施設での看取りについて、住民の理解が進んでいない印象を受ける。慣れ親しんだ介護施設でも最期を迎えることができる有用な制度だと思うが、町として、住民への制度周知をどのように考えているのか。

(事務局)

・遠賀中間医師会、遠賀郡4町、中間市で構成する在宅医療介護連携推進協議会で、まさしくその在宅医療の強化が議論されている。どこの介護施設でも看取りができるような状態にはまだなっていないが、そういった制度がある事について住民へのPRに取り組んではいる。まだまだ十分ではないため、引き続き今後も周知の方を行いたい。

議事2 第8期高齢者福祉計画骨子案について

- 事務局から【資料2】第8期高齢者福祉計画骨子案、及び【資料3】地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律概要に基づき説明。

●審議

(委員)

- ・P16 福岡県介護保険広域連合が行った高齢者アンケートの既往歴を問う設問で、認知症を選択した人が0.8%となっており、要介護認定を受けていない人が対象であったとしても割合が低すぎるように感じる。高齢化で認知症患者は増えていると思われるので、認知症対策の充実を行うべきである。

(事務局)

- ・認知症を選択した人の割合が少なかった理由としては、認知症との診断を受けている方の場合は、要介護認定等を受けている場合がほとんどであるためと思われる。国の認知症施策大綱も策定されており、町としても、認知症対策はしっかり考えていくべきだとの認識を持っている。

(委員)

- ・全国的に平均寿命が延びている中で、今後は健康年齢を引き上げることが重要であることから、芦屋町老人クラブ連合会でも、各種のスポーツ大会等を通じて、高齢者の健康増進や引きこもり防止等に取り組んでいるが、会員減少や役員のなり手不足等の理由により、地域の老人クラブが減っている現状がある。今後の町の対応や考えを伺いたい。

(事務局)

- ・老人クラブ等の地域でのコミュニティや支え合いは、今後ますます重要になると考えている。
町として、これをやれば確実に老人クラブの会員数が伸びるなど具体的な対策は今の所ないが、昨年度も行った定期的な協議を継続し、クラブ数や会員数の減少に歯止めがかけられるよう、老人クラブの皆さんと一緒に取り組んでいくことが大切だと思っている。

(委員長)

- ・感染症対策についてだが、計画のどこに入るのかが知りたい。地域づくりということで、老人会をどうやって広げていくかとの意見があったが、次の世代を考えた時に今の考え方で通用するのか不安。ICT やネットワークを使った運営や運用の仕方なども考えていかなければならない。今後の検討をお願いしたい。

(事務局)

- ・今後、検討させていただきたい。

その他

・報告1 「老人憩の家」アンケート結果について

- 事務局から【資料4】「老人憩の家」に関するアンケート結果について説明、報告。

(委員長)

- ・老人憩の家については、高齢者福祉に関係する事業であり、今後も進捗状況などを本委員会で報告いただきたい。

・その他

(委員)

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出機会の減少などで、今までできていたことができなくなった高齢者が増えてきている。難しい状況ではあるが、町社協として、住民の助け合い活動や組織化を今後も充実させていきたい。
- ・施策の全てにおいて、町の財政状況が関わってくるように思うが、記載されているような支援が本当にできるのか不安である。

(事務局)

- ・町の財政状況については、毎年公表しているとおりの健全な状況であり、競艇事業からの繰り入れなどもあることから、福祉施策に取り組むための財政基盤は整っている。

(事務局)

- ・次回会議は10月中を予定している。より詳細な内容を盛り込んだ計画の素案を提示させていただき、委員の皆様による内容の検討をお願いしたいと考えている。

以上